

事業中評価チェックリスト

事業名		土砂災害対策事業 (急傾斜地)	路線・河川 ・地区等名	ちょうぜんじ 長善寺	施行 場所	むらやまし おおあざ ちょうぜんじ ちない 村山市大字長善寺地内	
評価該当基準		事業採択後5年間を経過した時点で継続中の事業 (山形県(県土整備部)公共事業評価実施要領5-(1)-イ-(イ))				実施主体	山形県
事業採択年度 目標年度 [当初目標年度] (過年度評価時目標)	R2	全体事業費(進捗度%)		2.3億円	(53.4%)	事業延長等	コンクリート擁壁 L=27.2m 崩壊土砂防護柵 L=73.5m
	R8	内工事費		1.6億円	(39.6%)		
	[R8]	内用地・補償費		0.1億円	(88.0%)	供用延長等	-
	(-)	内測試費等		0.6億円			
事業の目的(地域性・特質性) ・当該傾斜は、平成22年1月29日に土砂災害(特別)警戒区域に指定されており、保全対象として人家6戸がある地区である。令和2年7月豪雨の際に土砂崩落が発生し、再度災害防止のため新規儀業として採択している。							
事業概要(主要工事内容) コンクリート擁壁 L=27.2m 崩壊土砂防護柵 L=73.5m							
事業の実施状況 ・令和5年度から工事に着手しており、Cブロック植生工、Dブロック植生工 A=670m ² 施工済み。 また、令和5年7月に崩れた箇所も植生工 A=15m ² 施工済み。 ・令和6年度にはAブロック擁壁工L=27.2mとCブロック擁壁工L=10.4mを施工中。							
上位計画、その他事業との関係(各上位計画で定めている項目を表すコード) ・第4次山形県総合発展計画 → 県民が安全・安心を実感し、総活躍できる社会づくり(政策の柱4) ・やまがた水害・土砂災害対策中期計画→確実に効果的な砂防関係施設の整備(5.2土砂災害対策編取組2)							
今後の事業の見通し ・令和8年の完成に向けて、Dブロックの用地借地、用地補償と崩壊土砂防護柵工の工事を進める。							
事業を巡る社会経済情勢等の変化 ① 国、県の政策や計画の転換等 R2年3月:「第4次山形県総合発展計画」策定 H31年3月:「やまがた水害・土砂災害対策中期計画」策定 上記計画に位置付けられた施策や方針に基づき取組事業として推進している。 ② 財政状況の変化 財政状況に変化は無い。 ③ 事業実施地域の周辺環境の変化 開発等もなく、周辺環境に変化はない。 ④ 地元の協力体制の変化 事業に対する反対者はなく、協力体制に良好である。 ⑤ 利用者見込み者数の大幅な変化 事業着手時は保全人家7戸だったが、1戸撤去したことにより保全人家が6戸になった。 ⑥ 代替方策による必要性の変化 施工性、民地への影響や経済性等を考慮し最善の工法を選定しているため、代替方策による必要性の変化はない。							
事業の投資効果 (凡例) ● 貨幣換算し、費用便益分析における便益(B)に計上している事業効果 ○ 貨幣換算する手法が確立されていないものの、事業により得られる効果の例							
投資効果		●長善寺地区人家6戸の家屋、家庭用品被害及び人的被害を軽減する。 ●県道30m及びその他道路50mの施設被害を軽減する。 ○土砂災害に対する不安感を解消し、安心感を向上する。					
社会的割引率	B/C	B/Cの代表的 な分析指標		・総便益の現在価値(B) ・総費用(事業費+維持管理費) の現在価値(C)		6.0億円 2.3億円	
4%	2.6						
2%(参考値)	3.8						
1%(参考値)	4.6						
●コスト縮減・○代替案等の可能性 ●計画時及び工事発注時に複数の工法・資材等の比較検討を行い、コスト縮減に努めている。 ○想定される斜面崩壊現象に合わせた工法の中から、現場特性を踏まえ比較検討し、最も効果的かつ経済的に優れた工法を採用しているため、代替案はない。							
当初又は前回評価時目標年より延長となる場合の理由(計画どおりの場合は空欄) ・							
評価区分	継続 A	評価の理由	事業の重要性、地域の要望・協力を総合的に判断し、継続としたい。				